





今年度の研修旅行についてご紹介します。

100

（注・表中、数字は合格者延人数を示し、○内は合格者中の進学者を示す。）

宗研一ボランティアア

この気持ち  
わかんねえ  
だらうなァー  
ゝ編集後記に  
代えてゝ

にされ」だとか「私共はやる気のない、誰かにまかせておけばいいかな」とかなどという責任のなさを言葉にしてきたつもりです」だとか、とにかく今、まさに我々洛基新聞局員全員の言いたいことが書いてあった。口の悪い某先生からは「体制べったんだ」といわれ、クラスメートからは「くらんもん作りやがって」と口きたなくのしられ、原稿の遅れにいらいらし、やっとできたこの新聞もその日のうちに便所のごみ箱で見つけられる

ないのだ。  
善惡に従つて行動する必要はない。しかし、社会の一成員として生活するには、その社会のルールを守る必要がある。というより、社会に、自分はルールを守っている、ということが認められなければならない。つまり、實際行動としてルールを守らなければならぬといふわけではない。社会と全く関連のない点においてルールを守るのは無意味だ。

もっとも、そうはいっても、こういった既成価値観は根柢よく湧き出しているから、自由な行動とはれない。

人間の価値観についてもう少し考えてみよう。

まずある個人がいてある目的をもっているとする。ならば、その目的を達成するために役立つものがあつべきものということになる。さて、その目的。その目的が、自分の最終的結末するときの状態を指すしよう。すると最終的結末はその個人の死であり、その死は永遠につづく。(絶対に生きること)。

かような幻想がうちくたかれるのは、死に直面し、自分がわずかの間に死ぬということが自覚されたときた。(たまたま事故による即死ではなく、特にガンによる死において。)そして個人は恐慌状態になる。このとき、霊魂の不滅でも信じていければ、永遠の生の幻想を信じることができる。このあたりは宗教の有様性でともいうべきだ。

逆に、社会にとっては個人の存在は重要でない。君主がいる社会において、君主が死ぬば、かなりな変化がおきるだろうが社会自体(言わば多数の民衆)は存続する(少なくとも国民の一部が喜ぶだけであらう)。失蹤と死はその時点の現象として同一だが周囲の人に及ぼす影響と法律上の取扱いが異なる。

つまり、各個人は可換性がある。(以上のことは国家社会へなりにならないとはいはつきりしない。

善悪と関わりなく、ひとつの事実であると考える。

(以上、時々本質という話を使つたが、本質Ⅱ人が認識する以前の実事、各個人の昇解の相違と関係しない。)

いいたりないこともあったが、ここで終わりにする。明記しなかったが、ある現象の記述があるとすべき、いつ、どこで(時空座標)が必要だ。

私自身、結局、自分の納得できている価値を見いだしていない、といふより、本質としての価値観はなく、あると信じている状態でしか、それは存在しないと考える。

では社会における目標はなんなのか、それは存在しないと思ふ。

では社会における目標はなんなのか、それは存在しないと思ふ。

無階級社会の実現がうすらぽんやりとしてあるにすぎない、私の思ひ考自身、パラドックスを一杯もっている。だいたい、思考する目的もないと私の思想自身が答えていないように思ふ。

考えたことから考えたいだけである。私はこのあたりにどう対処するか考える必要がある。

H II A 原井宏明

▼新聞が完成しても我々局員の仕事はまだ終りません。先生方に配り、各クラスに配り、投稿してくださった先輩や、他校の新聞部へ郵送し、また次号へ向い取材を開始する……この苦しみわかんねえだろうなあ――

▼おくれはせながら……二十五期明日から夏休み。みなさん、規則正しく、生活のリズムをつくすよう。

▼最後に一言、局員になつてくれた人とお礼してあげたい。おこしやす。この気持ちわかんねえだろうなあ。(わかつて下さいますか?)

に我々の気持ちがわかるかなあ。わかんなきゃもうなあー

▼くだらんもん作りやつて………と思ついている人はそのことを、学校がおもしろくない……と思つてゐる人はそのことをどんどん落し星新聞に投稿して下さい。紙面はいつも生徒諸君に開かれています。